



図246 足跡群 新潟県教育委員会提供



図245 遺跡の位置
5万分1地形図「新潟」

浦廻遺跡 南区戸頭

浦廻遺跡は中ノ口川の後背低地に立地している。標高は約一・五メートルである。国道八号白根バイパスの建設に伴う分布調査で発見され、平成十四（二〇〇二）年に新潟県教育委員会が六八〇〇平方メートルを発掘調査した。

調査の結果、遺跡の時期は十三世紀後半〜十四世紀前半の鎌倉時代後期で、水辺に近い低湿な環境であったことが分かった。遺構は発掘区域内の三か所で検出された。足跡だけが発見された所、畑の跡と考えられる畝状小溝が広がっている所、葬送の場と考えられる所である。

このうち、葬送の場と考えられる所から、木製品を中心とする多くの遺物が出土した。死者の遺品や、死者に供えられたものである。人や動物の骨も残っていた。人骨は、大腿骨や肩甲骨など七二点で、少なくとも五体分であった。中には、壮年男子と六〜七歳の子供と鑑定された頭蓋骨もあった。いずれの人骨にも焼かれた痕跡はなかった。また、大多数は土坑などの遺構から出土したのではなく、犬にかじられた痕跡があるもの



図247 卒塔婆木簡の長さ
18.7センチメートル 右端の教育委員会蔵

あった。浦廻遺跡で出土した人骨の主は、死後、墓穴に埋葬されたというよりも、野ざらしであったようである。

木製品は、漆器の椀や膳、曲物、下駄、草履、扇、箸、杓子・木簡など多種である。中でも木簡は多く、一〇〇点余り出土した。「南無阿弥陀仏」「南無大日如来」などと書かれた卒塔婆の木簡が多く、「急々如律令」と書かれた呪い札、法華経の一部を書いた柿経の木簡などもあった。遺骸は野ざらしであっても、きちんと供養されて来世に送られていたようである。

中世の葬送では、武士などの有力者は五輪塔や板碑を立てたり、塚を築いたりした。調査地から石造物は出土せず、塚の遺構もなかった。このことから、出土した卒塔婆などは、石造物を立てられない村人の葬送・供養に使われたとす
る見解がある。一方、僧侶に卒塔婆を書いてもら
って供養するにはお金がかかることから、単なる
村人のものではないという説もある。いずれにせ
よ、浦廻遺跡の一面は、水辺に営まれた鎌倉時代
の葬送・供養の場であり、この地域に暮らした人々
の死や宗教に対する意識がうかがわれる遺跡であ
る。出土品は県の文化財に指定されている。